

6 領聖前の祈祷文

主^{しゅ}や、我^{われ}信^{しん}じ且^{かつ}承^うけ認^めて、爾^{なんじ}を實^{じつ}にハリストス^②生活^{せいかつ}の神^{かみ}の子^こ、罪人^{ざいにん}を救^{すく}うが為^{ため}に世^よに來^{きた}りし者^{もの}となす、衆罪人^{しゅうざいにん}の中^{うち}我^{われ}第一^{だいいち}なり。

又^{また}信^{しん}ず、此^{これ}は乃^{すなわち}爾^{なんじ}が至^し淨^{じやう}の體^{たい}、此^{これ}は乃^{すなわち}爾^{なんじ}が至^し尊^{そん}の血^ちなりと。

故^{ゆえ}に爾^{なんじ}に祈^{いの}る、我^{われ}を憐^{あわれ}み、我^{わが}が自由^{じゆう}と自由^{じゆう}ならずして、言^{ことば}と行^{おこな}ひにて、知^しると知^しらずして、犯^{おか}しし諸罪^{しよざい}を赦^{ゆる}し給^{たま}え。

並^{なら}びに我^{われ}に定罪^{ていざい}なく、爾^{なんじ}が至^し淨^{じやう}なる機密^{きみつ}を領^うけて、罪^{つみ}の赦^{ゆる}しと永生^{えいせい}とを得^うるを致^{いた}させ給^{たま}え、「アミン」。

(続)

言葉の解説 (内田神父 付記)

① 「承^うけ認^める」は、告白^{こふびつ}します、はつきりと述べます、という意味です。心^{こころ}で信^{しん}じ、口^{くち}ではつきりと述べます。

② 「生活^{せいかつ}の神^{かみ}」は、生きて活動^{かつどう}する神^{かみ}、の意^い。神^{かみ}は人間^{にんげん}が想像^{さうざう}した理想^{りよう}像^{ざう}などではありませぬ。その力^{ちから}は目^めには見^みえないけれども、今^{いま}も現^{げん}実^{じつ}に全^{ぜん}てのもの(私^{わたし}たちの生命^{せいめい}、地球^{ちきゅう}・宇宙^{うちゅう}の全^{ぜん}て)を創^{つく}り育^{そだ}んでいる、実在^{じつざい}の「父^{ちち}である神^{かみ}」です。

③ 宇宙^{うちゅう}万物^{ばんぶつ}の創^{つく}られる前^{まえ}に、父^{ちち}である神^{かみ}より神^{かみ}の子^こは、生ま^うまれました。父^{ちち}である神^{かみ}、聖^{せい}神^{じん}である神^{かみ}と共に宇宙^{うちゅう}万物^{ばんぶつ}を創造^{そうぞう}した「至^し聖^{せい}三^{さん}者^{しゃ}」のうちの一^{いち}です。目^めに見^みえない神^{かみ}として人間^{にんげん}を見守^{みまも}ってきましたが、約^{やく}二^に千^{せん}年前^{ねん}に人間^{にんげん}として生^な神^{かみ}女^{にょ}マリヤ^{りや}からお生^うまれました。生^な神^{かみ}女^{にょ}とは、神^{かみ}を生^うんだ女性^{じょせい}という意味^{いみ}です。

④ 罪^{つみ}とはもともと、神^{かみ}がくださったものを私^{わたし}たちが大切^{たいせつ}にしないこと、感謝^{かんしゃ}しないことです。特^{とく}に大切な生命^{せいめい}を粗^ろ末^{まつ}にしたり傷^やつあつたりしてはいけなないと、ハリストスは私^{わたし}たちに「愛^{あい}」を教^{おし}えました。

⑤ 神^{かみ}の前^{まえ}には全^{ぜん}ての人間^{にんげん}が罪人^{ざいにん}ですが、その中^{なか}でも自分^{じぶん}が一番^{いちばん}の罪人^{ざいにん}です、と私^{わたし}たち一人^{ひとり}一人^{ひとり}が告白^{こふびつ}するのです。

⑥ 神^{かみ}の子^こは私^{わたし}たちを教^{おし}えるために人間^{にんげん}になり、さらに私^{わたし}たちの体内^{てい}にまで入^いって私^{わたし}たちの心^{こころ}と体^{たい}全^{ぜん}てを善^よきものとするために聖^{せい}体^{たい}礼^{らい}儀^ぎのパンとぶどう酒^{さけ}になりました。どうやってパンとぶどう酒^{さけ}が神^{かみ}の子^この体^{たい}と血^ちになるのか、神^{かみ}ではない私^{わたし}たちには分^わかりませぬが、実^{じつ}際^{さい}に聖^{せい}体^{たい}礼^{らい}儀^ぎは約^{やく}二^に千^{せん}年前^{ねん}からずつと行^{おこな}われてきています。

⑦ 人^{ひと}やものを傷^やつけてしまった時^{とき}、わざとではなかつたり、避け^ようがなかつたりすることもあります。知らずにしてしまうこともあります。それらも含^もめ全^{ぜん}ての罪^{つみ}を赦^{ゆる}してくださいと祈^{いの}ります。

⑧ 罪^{つみ}に定められるというのは、私^{わたし}たちがもう何も大^お切^きにできない、感謝^{かんしゃ}もできないという状態^{じょうたい}になってしまふということ、すなわち靈^{たま}と体^{たい}の死^しを宣告^{せんごう}されるということです。それに対し^{たいし}やり直^{なお}す力^{ちから}(痛^{いた}悔^{かい}による赦^{ゆる}し)の恵^{めぐみ}(をいつまでも)(永^{えい}生^{せい}を)与^{たま}えてくださいと祈^{いの}ります。